

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田	ユニット名	A
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121-1		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274200852-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=2274200852-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年11月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社ライフサポート全体の特徴として、静岡の市街地、住宅地に施設を建てています。その目的として、入居者家族が通いやすく、気軽に立ちよえる施設作りを目指しています。馴染みのある街並みの中にある環境整備の中で、緑を促進し、畑を用意することで花や自家製の野菜を作る楽しさと、食べる楽しみの両方を目指しています。市街地にあるため、気軽にお出かけできるようにしたり、広いスペースを活かしたレクリエーションを積極的に推進していきます。終末期を迎えておられる方もいらっしゃるのご家族様、係りつけ医と相談をしながらご生活を頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の住宅地にある和風建築のホームである。2つの中庭を中心に配し、周囲に広い回廊と共用スペースを巡らしてあり、緑が多く情緒のある、ゆったりした住まいとなっている。この環境の中、個室に閉じこもりがちな利用者は現在おらず、利用者のほとんどが常に共用スペースで、ゆったり過ごしている。職員は自由な雰囲気でのびのび介護をしており、ホーム長と職員間の風通しも非常に良いと感じられた。かかりつけ医の体制は、2つの往診可能な協力医院を受診する利用者、入居前からのかかりつけ医の継続を希望する利用者それぞれに対応しており、自由度が高い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一部の職員にGHの定義、理解に欠けている状況にある。概ね理解をし実践をしているが、一部には、欠けている職員もいる。	法人理念「ずっとあなたらしく ずっと快適な毎日を 安心と安らぎを創る」を入社時研修で説明し、毎月開催する職員会議や毎日の介護の中でも共有と実践について随時徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、地域のお祭りに参加して地域の一員である事を認識している。	自治会に入会し、町内の夏祭りや地域防災訓練・どぶ清掃への参加に加え、長田児童園からの小学生来訪やバンド演奏・日舞等地域ボランティアの月1回程度の受入れや、ホームの秋祭りへの地域住民の参加等がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて認知症への支援について説明・理解を深めていくようにしているが、イベント等に参加時には認知症である事への理解が乏しい方がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて当施設での取り組みについてわかりやすい言葉で伝えるように心がけている。	自治会長や民生委員・地域包括支援センター・介護相談員と家族6~7名が参加し、奇数月に定期開催されている。ホームより状況報告を行い、参加者から質問や意見が出される。11月末に翌年の開催予定を作成し、参加者に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターには定期的に訪問し、当施設の状況について報告、相談をしている。行政とは介護相談員を活用し、意見をお伺いし取り組んでいる。	地域包括支援センターへ月1回程度定期訪問し、報告・相談をしている。介護相談員の来訪を月1回受入れし、運営推進会議が同一日の場合はこれに参加してもらっている。市介護保険課にも必要時に訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてマニュアルに記載されており、全職員の統一事項として意識付けができています。広義では、完全に取り組めていない状況がある。	ゼロ宣言をし、法人として入社時と随時の研修を実施している。玄関の扉は夜間以外は施錠せず、チャイムをつけている。外出する利用者については見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び同社内の関連施設職員と共に学ぶ機会を設けていく提案をし、勉強会、研修の開催を行う計画を立てている。更に深い理解や勉強が必要ではある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者家族の中には権利擁護を必要としている方もいるため、学ぶ機会だけでなくどのように活用すればよいのか考慮している。現在では、利用されている方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、内容について詳細に説明を行ってから契約を行っている。署名時には主旨を理解していることを確認してから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者やCMのどちらかが出勤している時には、ご家族とお話する機会を必ず設けて、小さい意見であっても、運営の反映するように取り組んでいる。	家族の日々の来訪時や運営推進会議・運営推進会議と同日開催している家族会、ホームの秋祭りへの参加時等の機会に積極的に家族等の意見を聴取し、運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、意見や提案がある時には協議し、反映していくようにしている。	月1回開催の職員会議では、自由な雰囲気の中、多くの意見が出て職員間で活発な議論が行われている。職員参加の5つの係があり、自主的に活動を行っている。自己評価には全員が参画し、ホーム長がまとめた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の介護度によって勤務時間の構成見直しを行った。給与水準の見直しを会社全体で見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成プロジェクトとして、新人研修、中途採用者研修、各職種別の研修会を実施し、行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田地区の事例ネットワークや地域密着連合会に参加している。管理者だけでなくケアマネの参加も視野にいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に当施設上での要望や不安などについて話を聞き、安心できる環境作りに努めている。中には、認知症、精神疾患等で、なかなか上手くいかない事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅ケアでできていたこと、できていないこと、やりたかったこと等いろんなニーズを当施設の限られたハード内で可能な部分を取り入れるようにし、ご家族に安心を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居を設けており、契約したから即入居というやり方を使わず、数日様子を見て、環境に慣れないようなら他のサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話のできる入居者には話す機会をつくるようにし、うまく話せない入居者には表情や仕草等で関係性を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時には、時間を気にせずゆっくり過ごせる環境を整えている。また、認知症等に関するご提案やご相談を行い、共に理解しながら生活をご提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、墓参りや美容院等、入居者が行きたいところにはご家族協力のもと、支援を行っている。	友人の来訪が続いている利用者があり、墓参りや法事に家族同伴で出掛ける利用者も多く、支援を続けている。利用者の孫が成人式の報告にやって来たり、馴染みの美容院に通う利用者もいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく支えあい、孤立しないよう働きかけている。認知症、精神疾患での行き違いがあるので、注意が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も体験入居でのご利用やご家族様のご希望に沿っての支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に合ったケアができるよう職員で話し合いながら良いケアに努めています。ご本人様の思いや表情を汲みながら支援を行っている。	利用者一人に対し担当制を設けず、職員全体で個々の人間性を把握することにより、施設内の状況に左右されず希望や意向を可能な限り叶えられるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の資料の把握、インテーク時にはわからなかった部分も入居後に確認していくことを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化、身体状況について朝の申し送り確認し、無理のないようなケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に職員や家族と話し合いながら介護計画を作成しています。朝の申し送り時にケアカンファレンスを実施しています。	介護計画は半年に一度見直しをしている。日常の申し送り時や家族の訪問時に伝えられた意見等も介護計画に細かく記録され、見直し時にはそれらが反映されるようになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気付いたことを随時記録していくようにしています。記録から介護計画の見直しの骨組みを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員不足から柔軟な支援がとれていない状況にある。サービスの多様化についてはどのようなサービスを提供すべきか理解できていない部分がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事やイベント、住宅街だからできる近所のお出かけ等に行けるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と管理者、職員と健康についての相談がしやすい環境にある。	施設の提携医とかかりつけ医とが同じであるケースが多く、引き続きの医療支援が受けられている。協力医の受診・往診も手厚く、適切な医療が受けられる環境にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないため、往診医の看護師に相談したうえで主治医に上申をおこなっている。また、他事業所の看護師に相談をしながら支援を行う事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療相談員との関係性を重点に置き、入退院についての話し合いを多く行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたケアについては協議中になっている。ご家族や本人がどのような終末期を迎えたいのか繰り返し確認を行うようにしている。	急変時の対応については本人・家族等からサインをもらっているが、具体的に話し合いを進めるまでには至っていない。看取りの経験が過去にあるものの、夜間だった為、職員の中には未経験者も多く、実際の状況に不安な一面もある。	起こりうるケースに対しどう対応すべきかを職員で話し合い、研修等も取り入れたい。また、関係者への説明書面・マニュアル等、法人の別施設へ依頼をかけ、施設独自の書式として常備されることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに従い、主治医の指示のもと対処している。状況によっては救急搬送も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、鎌田地区町内会と連絡を取りながら地域の防災訓練に参加しています。	ホーム内の設備、警報機・消火器等はすべて備わっている。備蓄に関しても十分な備えが出来ている。施設すぐ近くに消防署がある事も心強い。防災訓練により、職員全体で災害時に対する心積もりができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねない対応を全職員心掛けています。	年長者を敬う気持ちを常に持ち、日常の馴れ合いにならないよう職員全体で気をつけ、共に注意を払っている。男性職員も多いため、異性の利用者への支援についても配慮が出来る環境にある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常における選択できる部分を状況に応じ、ともにお願ひしあうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	住まう事に「共同」が見えない部分がある。個別の対応を重視する部分がある為、共同性に欠けるパターンがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、入居者と一緒に衣類を確認しながら着替えを行っている。男性の髭剃りが行えていない時がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はボードに記載されているが、入居者の身体状況に合わせたメニュー作りも行っている。	ホームには畑があり、季節の野菜を利用者と共に育て収穫し、それらを食材として使うことでより一層の楽しみとなっている。利用者の嗜好を聞き、それに沿ったメニューにすることもあり、利用者が出来るだけ食に対し関わられるような工夫を考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の方の病歴、疾病に配慮した食事提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医のアドバイスのもと、必要な物品や口腔指導を行い、清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員によっては画一的で主観で支援する場面が見られている。	排泄の失敗にならないよう時間や回数で声掛けをし、その際の言い方にも尊厳を傷つけないような誘導に配慮している。また、排泄パターンが乱れないよう食品にも注意し、自立継続の為の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力での排便に着目するように心がけている。ご家族のニーズにも自力排便を促すようにしてほしい方がいらっしゃる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を固定しているが、状況に合わせて入浴介助を行うケースもあるが、全体としては少ないのが現状である。	入浴に対してのこだわりがある利用者がいないため、一人ずつ順番に入浴している。一日おきの入浴だが、ゆっくりと体が温まるよう体調には十分配慮しながら支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	浮腫みがある入居者もあるので、必要に応じて横になる時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は行っているも、一部の職員には薬の種類や内容について理解していないケースが見られる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での苗うえ、収穫、水やりを入居者とともに行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけて、買い物に行ったり、花を看たりしています。当社にバスがあるため、人数が可能な限り遠方への外出企画も行っています。	法人のバスを利用し、遠出企画も行い利用者の笑顔を引き出している。利用者の受診時に、外出希望があれば他の利用者も同伴、散歩を兼ねて戸外へ出掛けている。施設前の道が狭く交通量多いため、また職員の人員不足もあり日常的な散歩や外出支援が困難な状況にある。	法人バスをうまく利用し、少しでも多く外出機会を作ることを望みたい。また、過去の買い物で利用者の満足が得られた経験を活かしたい。施設の広い屋上や回廊を、気候のよい日や人手が足りている時などはそれらを散歩がわりにする等の工夫を求めたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りに出かけた時や、衣類を買いたいときには職員同行の元、小口のお金を持って支払等を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、職員が最初に対応しご家族とお話する機会を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に入居者の作品を展示したり、花をいけたりしています。女性の方は、フラワーアレンジメントを企画し、先生と共に楽しまれている。	個室に閉じこもりがちな利用者が現在いないことから、利用者のほとんどが常に共同スペースで時間を過ごす事が多く、居心地の良さが窺われる。職員の朝清掃・食後の食堂清掃により共同スペースの清潔を保ち、朝夕のトイレ掃除も欠かさない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士でお話したり、中庭で洗濯物を干したりして、施設内を自由に移動できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを用意することで居室内を自分の空間にできるようにしています。	入居時に私物の持ち込みに対し職員から提案し、使い慣れた筆筒や愛着ある飾り物など、自由に配置ができるようになっている。カーテンや家電の持ち込みも可能で、より個性を生かした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	頭から否定を行わないようにし、その人らしさを尊重するケアを実施しています。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200852		
法人名	株式会社ライフサポート		
事業所名	ライフサポート鎌田	ユニット名	B
所在地	静岡県静岡市駿河区鎌田121-1		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274200852-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2274200852-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成26年11月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

株式会社ライフサポート全体の特徴として、静岡の市街地、住宅地に施設を建てています。その目的として、入居者家族が通いやすく、気軽に立ちよえる施設作りを目指しています。馴染みのある街並みの中にある環境整備の中で、緑を促進し、畑を用意することで花や自家製のお野菜を作る楽しみと、食べる楽しみの両方を目指しています。市街地にあるため、気軽にお出かけできるようにしたり、広いスペースを活かしたレクリエーションを積極的に推進していきます。終末期を迎えておられる方もいらっしゃるのをご家族様、係りつけ医と相談をしながらご生活を頂いている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一部の職員にGHの定義、理解に欠けている状況にある。概ね理解をし実践をしているが、一部には、欠けている職員もいる。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、地域のお祭りに参加して地域の一員である事を認識している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて認知症への支援について説明・理解を深めていくようにしているが、イベント等に参加時には認知症である事への理解が乏しい方がいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて当施設での取り組みについてわかりやすい言葉で伝えるように心がけている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターには定期的に訪問し、当施設の状況について報告、相談をしている。行政とは介護相談員を活用し、意見をお伺いし取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについてマニュアルに記載されており、全職員の統一事項として意識付けができています。広義では、完全に組み立てていない状況がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者及び同社内の関連施設職員と共に学ぶ機会を設けていく提案をし、勉強会、研修の開催を行う計画を立てている。更に深い理解や勉強が必要ではある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者家族の中には権利擁護を必要としている方もいるため、学ぶ機会だけでなくどのように活用すればよいのか考慮している。現在では、利用されている方はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、内容について詳細に説明を行ってから契約を行っている。署名時には主旨を理解していることを確認してから行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者やCMのどちらかが出勤している時には、ご家族とお話する機会を必ず設けて、小さい意見であっても、運営の反映するように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて、意見や提案がある時には協議し、反映していくようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者の介護度によって勤務時間の構成見直しを行った。給与水準の見直しを会社全体で見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成プロジェクトとして、新人研修、中途採用者研修、各職種別の研修会を実施し、行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長田地区の事例ネットワークや地域密着連合会に参加している。管理者だけでなくケアマネの参加も視野にいれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク時に当施設上での要望や不安などについて話を聞き、安心できる環境作りに努めている。中には、認知症、精神疾患等で、なかなか上手くいかない事もある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅ケアでできていたこと、できていないこと、やりたかったこと等いろんなニーズを当施設の限られたハード内で可能な部分を取り入れるようにし、ご家族に安心を提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居を設けており、契約したから即入居というやり方を使わず、数日様子を見て、環境に慣れないようなら他のサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	話のできる入居者には話す機会をつくるようにし、うまく話せない入居者には表情や仕草等で関係性を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来た時には、時間を気にせずゆっくり過ごせる環境整えている。また、認知症等に関するご提案やご相談を行い、共に理解しながら生活をご提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、墓参りや美容院等、入居者が行きたいところにはご家族協力のもと、支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく支えあい、孤立しないよう働きかけている。認知症、精神疾患での行き違いがあるので、注意が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も体験入居でのご利用やご家族様のご希望に沿っての支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に合ったケアができるよう職員で話し合いながら良いケアに努めています。ご本人様の思いや表情を汲みながら支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等の資料の把握、インテーク時にはわからなかった部分も入居後に確認していくことを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調変化、身体状況について朝の申し送り確認し、無理のないようなケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に職員や家族と話し合いながら介護計画を作成しています。朝の申し送り時にケアカンファレンスを実施しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に気付いたことを随時記録していくようにしています。記録から介護計画の見直しの骨組みを作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員不足から柔軟な支援がとれていない状況にある。サービスの多様化についてはどのようなサービスを提供すべきか理解できていない部分がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われている行事やイベント、住宅街だからできる近所のお出かけ等に行けるよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医と管理者、職員と健康についての相談がしやすい環境にある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないため、往診医の看護師に相談したうえで主治医に上申をおこなっている。また、他事業所の看護師に相談をしながら支援を行う事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療相談員との関係性を重点に置き、入退院についての話し合いを多く行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けたケアについては協議中になっている。ご家族や本人がどのような終末期を迎えたいのか繰り返し確認を行うようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時にはマニュアルに従い、主治医の指示のもと対処している。状況によっては救急搬送も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し、鎌田地区町内会と連絡を取りながら地域の防災訓練に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねない対応を全職員心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常における選択できる部分を状況に応じ、ともにお話しあうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	住まう事に「共同」が見えない部分がある。個別の対応を重視する部分がある為、共同性に欠けるパターンがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、入居者と一緒に衣類を確認しながら着替えを行っている。男性の髭剃りが行えていない時がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はボードに記載されているが、入居者の身体状況に合わせたメニュー作りも行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の方の病歴、疾病に配慮した食事提供を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医のアドバイスのもと、必要な物品や口腔指導を行い、清潔保持を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員によっては画一的で主観で支援する場面が見られている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自力での排便に着目するように心がけている。ご家族のニーズにも自力排便を促すようにしてほしい方がいらっしゃる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を固定しているが、状況に合わせて入浴介助を行うケースもあるが、全体としては少ないのが現状である。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	浮腫みがある入居者もあるので、必要に応じて横になる時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認は行っているも、一部の職員には薬の種類や内容について理解していないケースが見られる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での苗うえ、収穫、水やりを入居者とともにのっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブに出かけて、買い物に行ったり、花を看たりしています。当社にバスがあるため、人数が可能な限り遠方への外出企画も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お祭りに出かけた時や、衣類を買いたいときには職員同行の元、小口のお金を持って支払等を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、職員が最初に対応しご家族とお話する機会を設けています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に入居者の作品を展示したり、花をいけたりしています。女性の方は、フラワーアレンジメントを企画し、先生と共に楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士でお話したり、中庭で洗濯物を干したりして、施設内を自由に移動できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みのものを用意することで居室内を自分の空間にできるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	頭から否定を行わないようにし、その人らしさを尊重するケアを実施しています。		